

京都府南部弱視学級等担任向け研修会

報告



公開授業・実践報告 宇治市立三室戸小学校
教諭 寺下清美(弱視学級担任)
講義 京都府スーパーサポートセンター
視覚支援担当 森上 和

今年度も京都府南部の弱視学級等を担任されている先生方を対象に研修会を実施しました。弱視学級の担任3名、通常学級等で弱視(「疑い」を含む)のお子さんを担当されている先生3名の参加がありました。

今回は初めて、弱視学級の授業参観をさせていただき、そのあと実践報告と講義、協議と大変充実した内容になりました。

弱視の児童生徒数、担任ともに少ないですので、今後もこのできたネットワークを活かして、京都府の弱視学級における指導が進んでいくことに期待した研修でした。

<公開授業・実践報告 宇治市立三室戸小学校 寺下清美 教諭(弱視学級担任)>

学習内容 自立活動「単眼鏡を使ってクイズに答えよう。」
ねらい 手がかりを捉え、対象物を見つけることができる。
単眼鏡の操作に慣れ、文字の大きさや視距離に応じたピント合わせができる。

<講義 京都府スーパーサポートセンター 視覚支援担当 森上 和>

弱視学級における自立活動の在り方

I 対象となる児童生徒

<拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度のもの>

II 教育内容

<原則として通常の小中学生と同じ。必要に応じて特別の教育課程を編成して、特別支援学校の「自立活動」の内容を取り入れた指導を行っている。>

III 自立活動

内容①健康の保持②心理的な安定③人間関係の形成④身体の動き⑤コミュニケーション⑥環境の把握

アンケートより

- ・単眼鏡を自分の体の一部のように使いこなしている姿に驚きました。一言で「使う」と言っても、そのためにはピントを合わせたり予測をしたりする必要があることが分かりました。
- ・通常学級において、弱視児童が将来自立していくことを想定して授業を行うことがとても大切であり、私たち教師は、その自立を支えなければならないことをあらためて再確認しました。
- ・見えにくさのアセスメントをしっかりとすることにより、児童の力の伸びにつながる支援ができるという話をしっかりと心に留めて、支援指導していきたいと思えます。
- ・弱視児の授業を参観するというのが初めてだったので、こういうことをしていけばいいのかと、とても勉強になりました。具体的なことを知れて良かったです。
- ・もっと幅広く自立活動をとらえていくことと焦点化してとらえることが必要だと思えます。「何をしたらいいのか」から抜け出せず、研修の必要性を実感しました。